

ICT活用教育の推進に係る事業改善検討委員会

GIGAスクール構想支援事業 ～ 現状と課題について ～

GIGAスクール構想支援事業

～ 現状と課題について ～

- ① 研究指定校の取組
- ② 校内研修に係る支援
- ③ SAGA Eコネクト

① 研究指定校の取組 唐津市立肥前中学校(R3～4)



生徒一人一人の「学ぶ力」を育成する指導法の工夫
～1人1台端末の活用を通して～

令和4年5月31日に授業公開研究会が開催されました。肥前中は本研究指定2年目。今回は5クラスで研究授業が開かれ、アンケート機能やプレゼンテーション機能の活用など、たいへん参考になる実践が紹介されました。

神埼市立仁比山小学校(R3～4)



「豊かに学ぶ児童の育成」
～学びを支える1人1台端末の活用を通して～

令和4年11月4日に授業公開研究会が開催されました。仁比山小も本研究指定2年目。今回は、理科や社会、特別支援教育における授業が公開されました。一人一台端末の効果的な活用について議論が交わされ、活用の在り方について考えました。

武雄市立武雄小学校(R3～4)



1人1台端末を活用した授業改善
～「協働的な学び」「個別最適な学び」の
実現を目指して～

令和4年11月18日に授業公開研究会が開催されました。仁比山小も本研究指定2年目。「協働的な学び」「個別最適な学び」の具体が示され、先進性と提案性の高い授業が公開されました。「タブレットの即時性」を意識し、効果的に活用を図る実践がどの学年でも実践されていました。

鳥栖市立若葉小学校(R4～5)



主体的・対話的な学習を通して、
自分の考えを表現できる子どもの育成
～ユニバーサルデザイン化を目指した
国語科の授業づくりとICTのベストミックスを図る～

令和4年6月29日と9月9日、11月29日に授業公開研究会が開催されました。

授業のUD化を意識し、【視覚化】【共有化】【焦点化】のために、電子黒板や端末、Jamboardやスライド等を効果的に使って、授業は展開されました。端末を使い言葉のもつよさを味わいながら俳句作りに取り組んだり、話し合ったりして、学習を深める児童の姿が印象的でした。

② 校内研修の支援について

実施件数66件(予定も含む)

【小学校40校、中学校23校、特別支援学校1校、市町教育委員会2市】



校内研修の支援の内容

研修A 学習ツールの演習を中心とした研修

研修内容（例）

- (1) 1人1台端末を活用した授業づくり
 - ・ 端末活用ステップアップシート
 - ・ 活用事例等の情報提供
明日から使える活用事例体験
- (2) 演習・協議
 - ア 授業での活用方法の検討（個）
 - イ グループ協議（グループ）
 - ウ 協議内容の発表（全体）
 - エ 個人の具体的な取組の決定（個）
- (3) 今後の活用に向けて
 - ・ 計画と実行、評価改善、情報の共有

研修B 学習ツールを授業づくりに活用する協議を中心にした研修

研修内容（例）

- (1) 1人1台端末を活用した授業づくり
 - ・ 端末活用ステップアップシート
 - ・ 活用事例等の情報提供
「書く活動」「話し合い活動」「振り返り」等
- (2) 演習・協議
 - ア 授業での活用方法の検討（個）
 - イ グループ協議（グループ）
 - ウ 協議内容の発表（全体）
 - エ 個人の具体的な取組の決定（個）
- (3) 今後の活用に向けて
 - ・ 計画と実行、評価改善、情報の共有

研修C 当該校の授業を参観し、学習ツールを効果的に活用する協議を中心にした研修

研修内容（例）

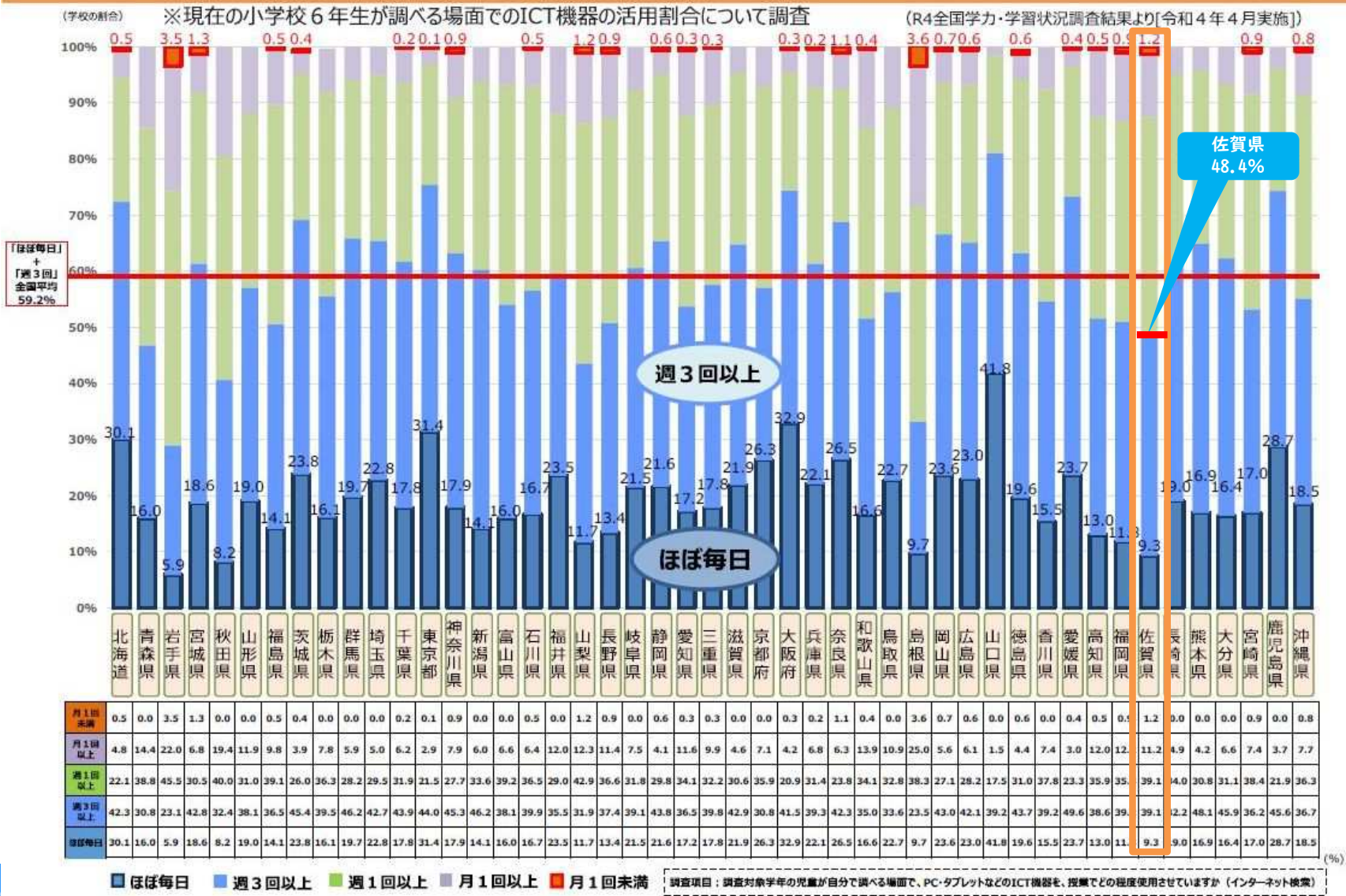
- (1) 当該校の授業等を指導主事及び教職員が参観
- (2) 1人1台端末を活用した授業づくりについて協議
- (3) 指導助言

研修D オンライン授業の進め方等についての研修

研修内容（例）

- (1) 1人1台端末を活用した授業づくり
- (2) オンライン授業実践事例の紹介
双方向型授業・オンデマンド教材
- (3) コミュニケーション支援ツールを使用した授業体験

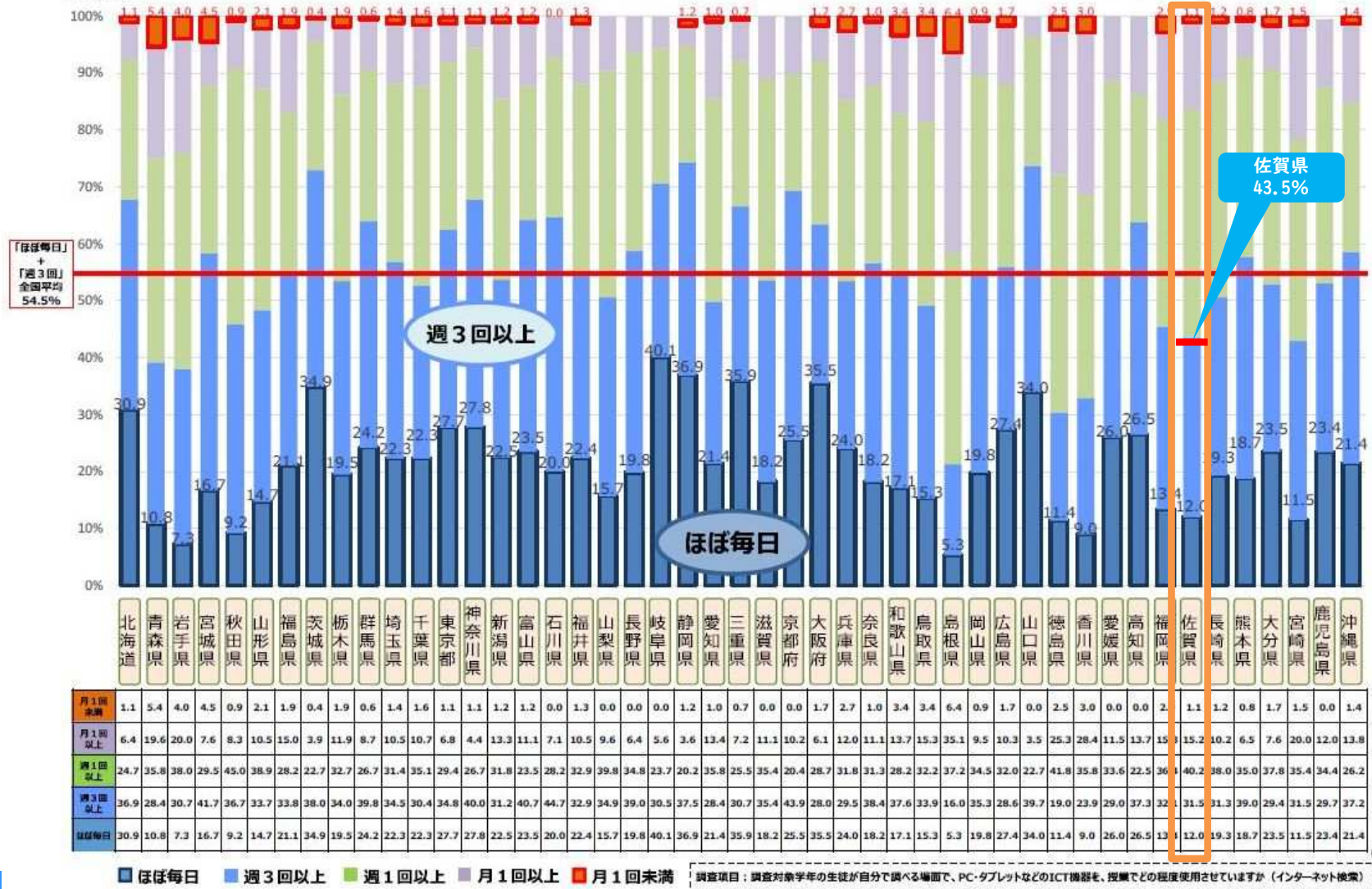
自分で調べる場面でICT機器を使用している学校の割合（小学校・都道府県別 ※政令市除く）



授業一般
調べる場面
教職員・生徒
発表・表現
児童生徒同士
持ち帰り

自分で調べる場面でICT機器を使用している学校の割合（中学校・都道府県別 ※政令市除く）

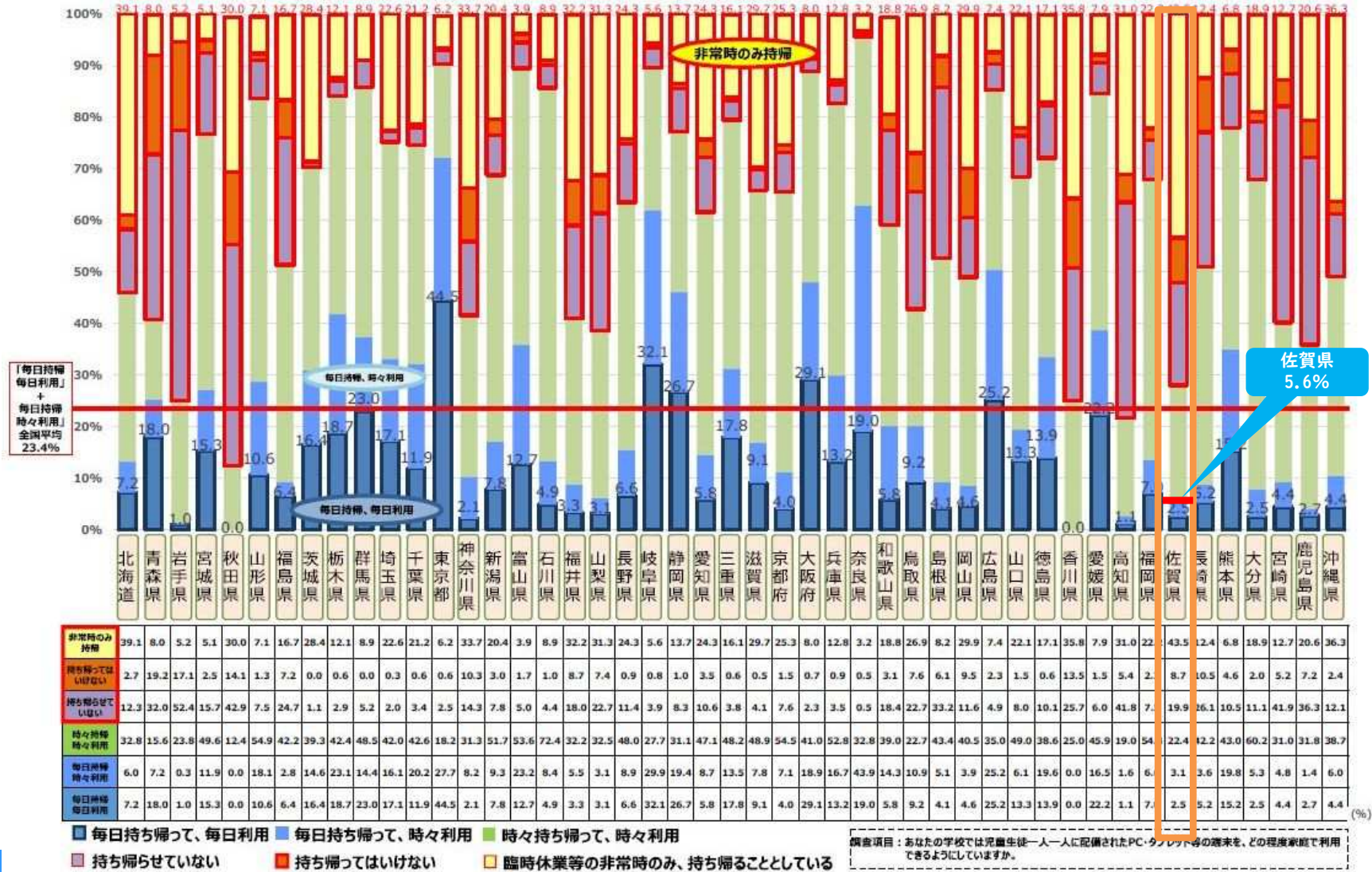
※現在の中学校3年生が調べる場面でのICT機器の活用割合について調査 (R4全国学力・学習状況調査結果より[令和4年4月実施])



授業一般
調べる場面
教職員・生徒
発表・表現
児童生徒同士
持ち帰り

1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合（小学校・都道府県別）※政令市除く

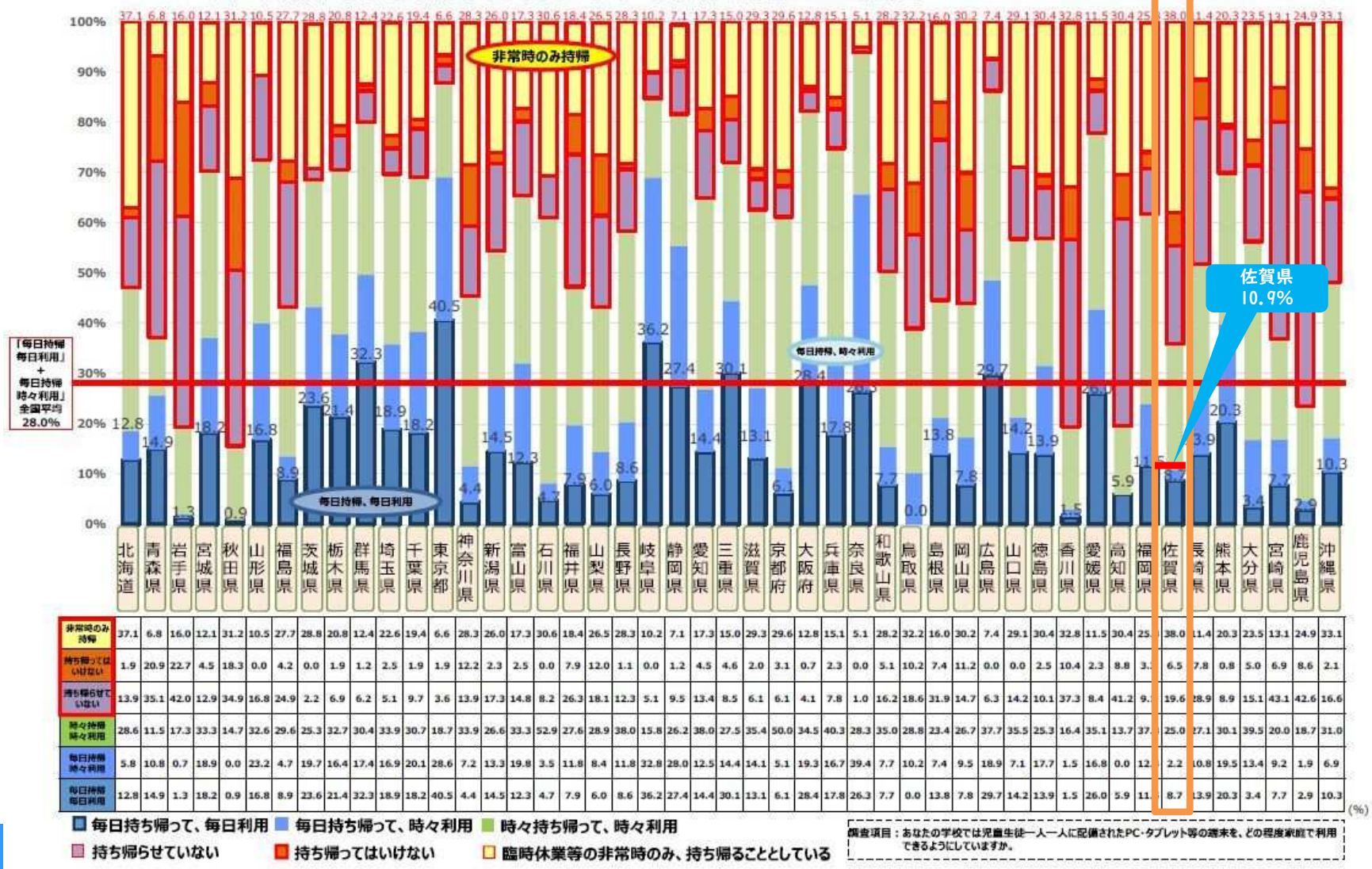
※1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合について調査（R4全国学力・学習状況調査結果より[令和4年4月実施]）



授業一般
調べる場面
教職員・生徒
発表・表現
児童生徒同士
持ち帰り

1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合（中学校・都道府県別 ※政令市除く）

※1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合について調査（R4全国学力・学習状況調査結果に基づき令和4年4月実施）

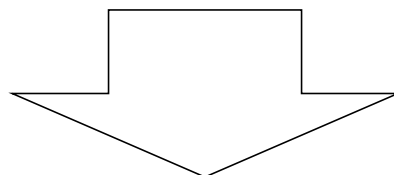


授業一般
調べる場面
教職員・生徒
発表・表現
児童生徒同士
持ち帰りの

<市町立学校の課題>

△二極化

- ・ 端末を授業で活用している教員としていない教員、積極的に活用している学校とそうでない学校
- ・ 教師の意欲や基本スキル等を含めたICT活用指導力
- ・ 学習者用デジタル教科書の活用
- ・ 自宅等に持ち帰っての活用が進んでいる学校とそうでない学校



- 持ち帰っての活用については、ICT活用教育推進協議会においても議題に挙げ、各市町教育委員会においても持ち帰りを推進していく方向で確認
- 各種研修や公開授業、研究指定校の実践、ICT活用のサイトなどを通して、教員のICT活用指導力向上を図る

③ SAGA Eコネクト

-さがのICT活用教育-

SAGA Eコネクト

佐賀県のICT活用教育（プロジェクトE）のサイトです。いつでも、どこでも、だれでも使える、たくさんの事例を紹介します。

授業動画

端末を効果的に活用した授業のダイジェストです。

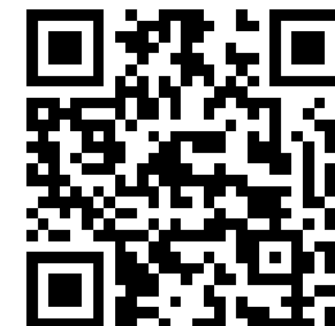


2022年00月00日 中学生

伊万里青嶺中学校

SAGA Eコネクト URL
<https://www.saga-high-school.jp/e-connect/>

右のQRコードからもアクセス可能です。 ⇒



- ・50分の授業を5～10分にまとめて、端末活用の要点がわかりやすく紹介できる。
- ・テロップも入りさらにわかりやすい。
- ・教員と児童生徒のインタビューも織り込んでおり、実際の授業よりも授業の様子がわかりやすくなっている。

ICT活用教育の推進に係る事業改善検討委員会

英語デジタル教材について ～ 現状と課題 ～

英語学習デジタル教材構成について

①ログイン画面



②問題選択画面



- 【小学生中学年・高学年用】
- 英語チャレンジ(1)、(2)
 - [もじとおと・きく1・きく2・はなす]
- 【中学・高校生用】
- 英検5級～準1級
 - [Reading1・reading2・Listening・Writing・Speaking]
- 約600問収録



③問題画面



④結果画面

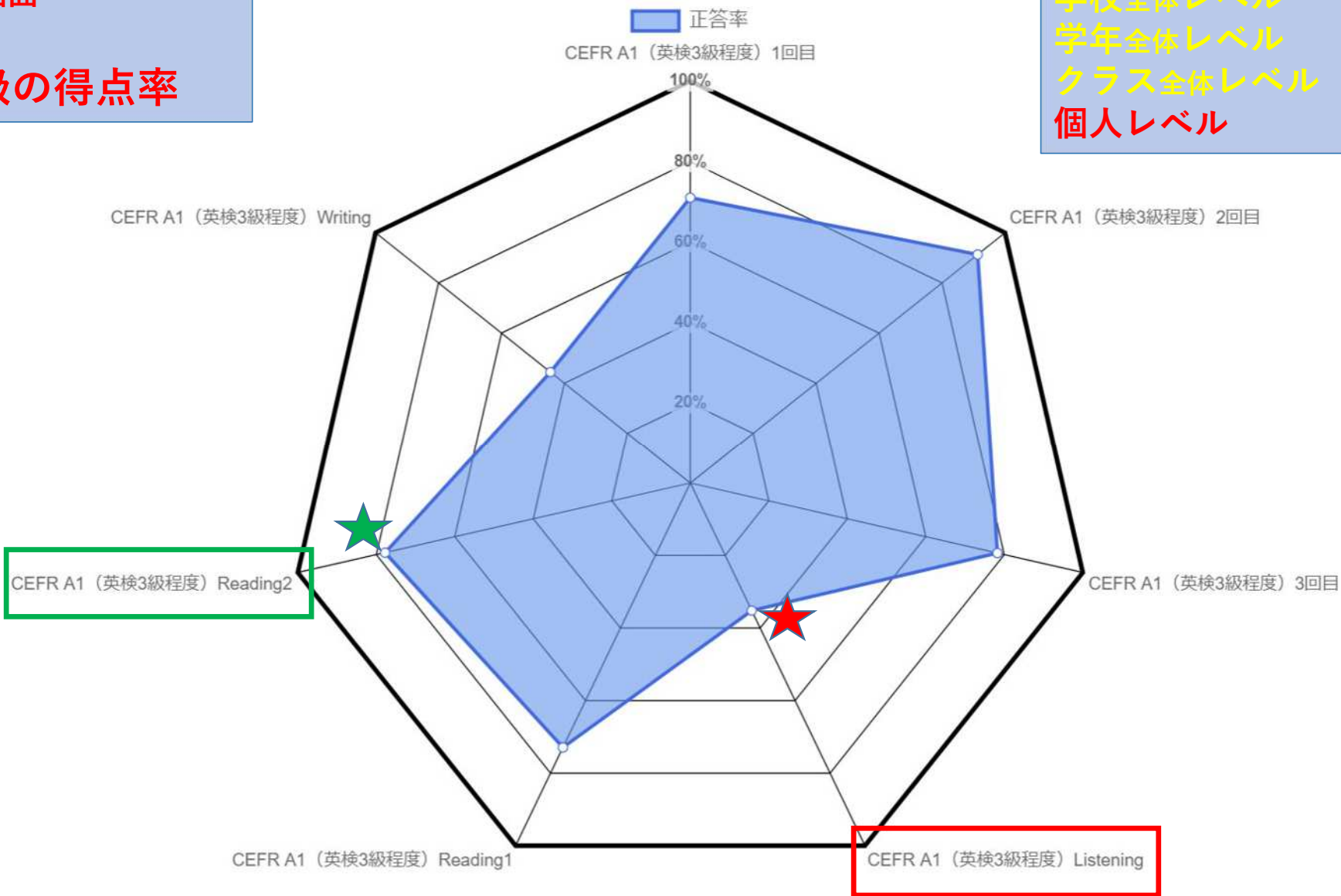


- 正答率によりランク表示
- SS 100%
 - S 90%以上
 - A 80%以上
 - B 70%以上
 - C 69%以下

※その他、各学校用にレーダーチャートによる結果分析画面を表示

教員の管理画面
：英検3級の得点率

学校全体レベル
学年全体レベル
クラス全体レベル
個人レベル





授業の
最初の5分

家庭学習

英語力
測定

英検_等準備

突然の
自習

学習履歴
の活用

【SAGA e スタディ】試行テスト 生徒による感想

- ・ 一問ずつ答えが分かるのでよい。
- ・ リスニングの音声は何度も聞けるのがいい。
- ・ 並べかえの操作がシンプルで解きやすかった。
- ・ 分野別に自分の取り組みたいものが選べるのがよい。
- ・ かなりシンプルな作りで使いやすく、見やすかった。
- ・ 自分に合ったレベルで学習できるのでいいなと思った。
- ・ 知らない表現を知ることができてとてもいいと思います！
- ・ 英検の級に合わせたテストが受けられるのが便利でいいと思った。
- ・ これまでスピーキングの練習が無くて困っていたのでそれがあって嬉しい。
- ・ デジタル教材だと紙のようにかさばることがないのでいいと思った。
紙でするよりやる気が出ると思った。

成果と課題

成果

- (教員) 全体傾向と個別傾向を測定できるようになった。
- (生徒) いつでもどこでも、自分の理解度や進捗度に応じて学習できるようになった。
- (生徒) 県内すべての児童生徒が質の高いデジタル教材を使用できるようになった。

課題

- 同時接続が難しい学校もある。
- 各級あたりの問題数が3回しかない。
- 県内学校の全体が利用できる環境にあるが、活用が進んでいない学校がまだまだ多い。

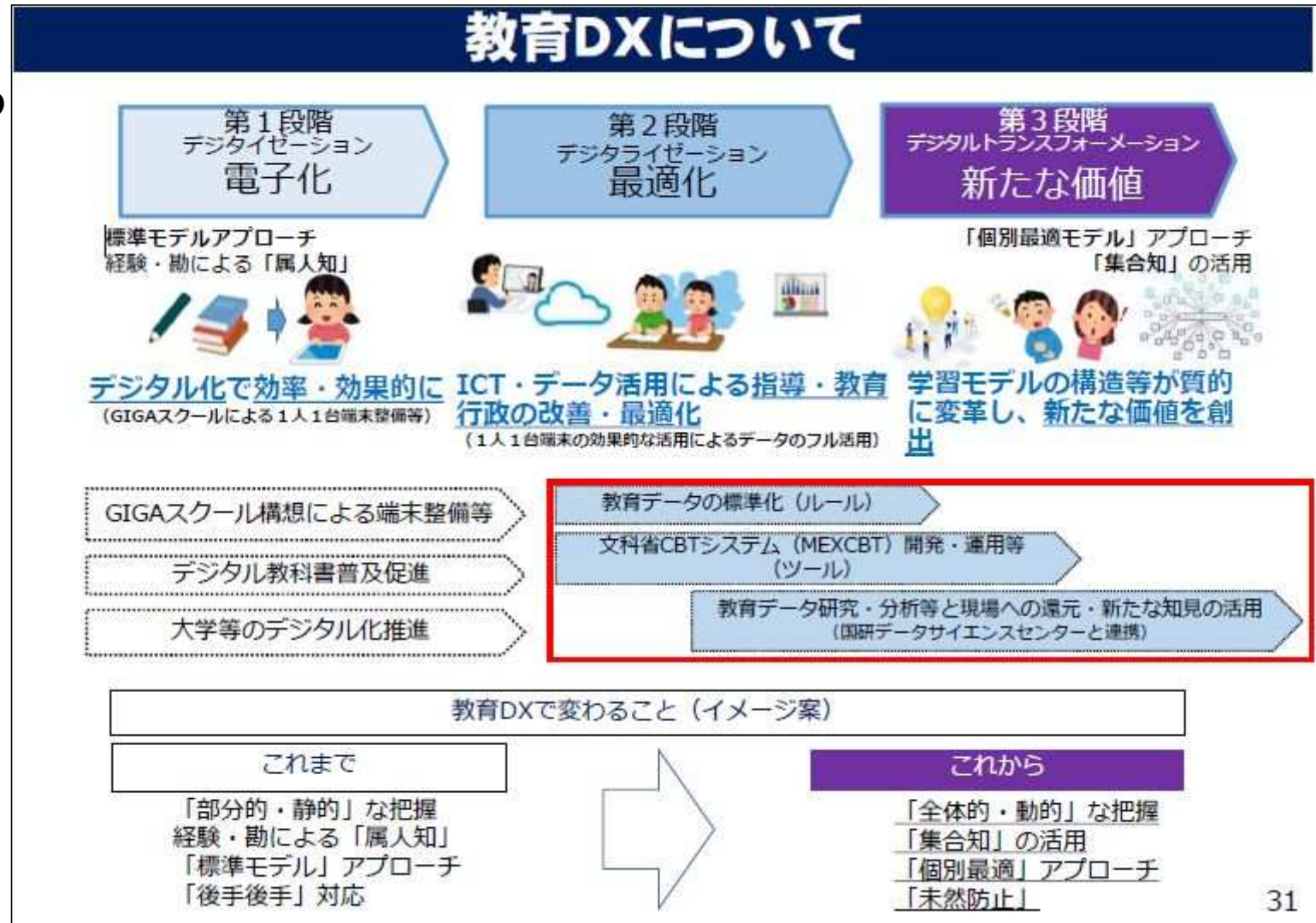


ICT活用教育の推進に係る事業改善検討委員会

教育DXの推進について



国の教育情報化推進についての
考え



第3回教育振興基本計画部会
(2022.06.02)

国の教育情報化推進についての考え

	デジタル化の3分類		
	Digitization (情報のデータ化)	Digitalization (業務のICT化)	Digital Transformation (デジタルによる価値創造)
内容	アナログの情報をデジタルの形式に変換する技術的過程	情報のデータ化を前提として、業務をICT化する業務的過程	情報のデータ化、業務のICT化を前提に、住民本位の行政、地域、社会を再構築する価値共創的過程
ミッション・ビジョンの必要性	低い		高い
用語の親和性	業務効率化・省人化・コスト削減		UI・UX・個別最適化
視点	業務本位		住民本位
視点	部分的・戦術的		全体的・戦略的
視点	業務		経営
具体例(行政)	マイナンバーカードによって、申請書類の記入が省略できる	マイナンバーカードを持って、コンビニエンスストア等で自動交付機を通じて住民票を取得できる	役所に訪れ、申請することなく、プッシュ型で必要な行政サービスが、必要としている人に提供される
具体例(教育)	教室での授業で、紙ではなく、デジタル教科書を活用する	教室型のオンライン授業を実施し、全ての生徒が同じ課題を電子データで提出する	県外の学校に入学しなくても、世界最高かつ個別最適化された高等教育を受けられ、学習歴が記録される
備考	一般的に「ICT化」「IT化」と捉えられる段階で、既存のアナログの業務を前提としている		既存のアナログ業務や価値観を前提としない

図1 DXに向かう3つの段階（自治体DX白書編集委員会2021）

国の教育情報化推進についての考え

Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ

総合科学技術・イノベーション会議
(2022.06.02)

3. 3本の政策と実現に向けたロードマップ

【政策1】子供の特性を重視した学びの「時間」と「空間」の多様化＜目指すイメージ①＞

すべての子供たちの可能性を最大限引き出すことを目指し、子供の認知の特性を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、「そろえる」教育から「伸ばす」教育へ転換し、子供一人ひとりの多様な幸せ(well-being)を実現するとともに、一つの学校がすべての分野・機能を担う構造から、協働する体制を構築し、デジタル技術も最大限活用しながら、社会や民間の専門性やリソースを活用する組織(教育DX)への転換を目指す。これを実現するためには、皆と同じことを一斉にやり、皆と同じことができることを評価してきたこれまでの教育に対する社会全体の価値観を変えていくことも必要となる。

2017年改訂により資質・能力重視の教育課程へと転換

多様な子供たちに対してICTも活用し
個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実

発達障害の可能性のある子供
特異な才能のある子供

子供主体の学び
子供の理解度や認知の特性に応じて自分のペースで学ぶ

教師による一斉授業
一定のレベルを想定した質の高い授業展開

学年に関係なく
学年・学校種を超える学びや学年を越えた学びも

同一学年で
同一学年で構成され該当学年の学び

教室以外の選択肢
教室になじめない子供が教室以外の空間でも

同じ教室で
集団行動が基本となる教室で

教科等横断・深究・STEAM
教科の本質の学びとともに、教科の枠組みを超えた実社会に活きる学びを

教科ごと
教科担任制のもと教科ごとの指導

Coaching
子供の主体的な学びの伴走者へ

Teaching
指導書のとおり計画を立て教える授業

多様な人材・協働体制
多様な教職員集団
理数、発達障害、ICT、キャリアなど専門性を活かした協働体制

同質・均質な集団
教員養成学部等を卒業し、定年まで勤めることが基本
万能を求められる教師

不登校・不登校傾向
日本語を家であまり話さない子供
家にある本の冊数が少なく
学力の低い傾向が見られる子供
※読書や読解力の低下は重要な教育課題

不登校・不登校傾向
日本語を家であまり話さない子供
特別なカリキュラム組み、ICTも活用しながら、日本語習得と同時に学びを進めることができる

家にある本の冊数が少なく
学力の低い傾向が見られる子供
タブレット等の活用により自分のペースで着実に自分の理解に応じて学びを進めることができる

協働的な学び
家庭や経済力、認知の特性や興味などが異なる子供たちが協働して学ぶ機会を確保し、そのためには教育の枠組みを柔軟にすることが必要

個別最適な学び
自分の特性を理解し、ICTを活用しながら、自分に合った学び方で進めることができる

多様な才能のある子供
特異な才能のある分野を伸ばすため、大学や研究機関や社会に出ることができる

23

※子供の数の考え方・定額等については、スライド100の表と同様。
※示されたシナリオの中、個別最適な学び・協働的な学びを追求している学校や教員も沢山いるが、現シナリオでは一般的に限界があることを想定して図式化

国の教育情報化推進についての考え



教育データ利活用ロードマップ

デジタル庁
総務省
文部科学省
経済産業省

佐賀県の教育情報化推進についての考え

【国】 教育振興基本計画



【佐賀県】佐賀県総合計画2023



【佐賀県教育委員会】佐賀県教育情報化推進計画

教育DXについて、考えやアイデア、要望などをお聞かせください。

- ① 児童生徒の育成
- ② 教職員の指導力向上
- ③ 教員の働き方改革（校務の情報化）
- ④ 環境整備
- ⑤ その他 保護者と学校の関わり 等